

パウダー好きー

毎年冬になると、僕はスキーが楽しみである。それもパウダースキーといわれる新雪が降り積もった山の斜面を滑ることが何よりも好きである。

誰も滑っていない真っ白な雪の斜面を、雪煙を上げながらハイスピードで滑走する。ふかふかに積もった雪面を滑るとまるで綿雲の上を滑っているかのような、そんな浮遊感がある。雪は舞い上がって顔面を覆い、痛いほど冷たいが関係ない。大自然と調和して滑る感覚がたまらないのだ！

今年は暖冬で各地のスキー場で雪不足、営業すら出来ないというスキー場もあると聞く。場所によってはスノーマシンによって人工的に雪を作りゲレンデに雪を降らしている。

人工雪でも雪は雪。滑ればすべてスキーである。それはそれでいい。しかしパウダーと呼ばれるようなサラサラとした粉雪は機械では作れない。

僕がただ残念と思うのは、今年はあまりにも雪が降らないので、単純にパウダースキーがあまり楽しめないということなのだが、それにも増して残念なのは、人工的に雪を作らなければならないほど自然のバランスが崩れてしまっているということである。

僕が求めるスキーは最早、標高の高い豪雪の別天地、御嶽の大斜面にしかないのかもしれない。

(写真・文市川典司)

五の池
小屋だより